

# 補聴器販売 従事者 のための手引き

【 高齢者に対する  
補聴器フィッティングの留意点 】

発行者

一般社団法人 **日本補聴器販売店協会**

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-11-1 島田ビル6F

TEL : 03-3258-5964 FAX : 03-3258-9033 URL : <https://www.jhida.org>

発行日

初版 2021年3月19日

このテキストは、老人保健事業推進費等補助金「令和2年度高齢者に対する補聴器のフィッティングに関する調査研究事業」にて作成したものである。

一般社団法人  
**日本補聴器販売店協会**

# 目次

はじめに ..... P.1

## 【基礎知識】

1 高齢者の特徴 ..... P.2～5

1. 加齢と老化
2. 高齢者の定義
3. 老化の特徴
4. 老化と疾患
5. フレイルとサルコペニア
6. 老年症候群
7. まとめ

2 認知症の基礎知識 ..... P.6～8

1. 認知症とは
2. 認知症の危険因子
3. 認知症の基礎疾患
4. 認知症への気付き

3 高齢者との接し方 ..... P.9～13

1. 高齢期にみられる難聴の特徴を理解する
2. 加齢性難聴の特徴をふまえた高齢者への接し方
3. まとめ

## 【アンケート調査報告】

1 調査概要 ..... P.14

2 アンケート結果(技能者) ..... P.15～25

1. 認定補聴器技能者対象アンケート用紙(見本)
2. 回答者(認定補聴器技能者)の基本情報
3. 高齢のお客様への補聴器販売について
4. 認知症・物忘れについて

3 アンケート結果(顧客) ..... P.26～36

1. 顧客(65歳以上の高齢者)対象アンケート用紙(見本)
2. 回答者および補聴器使用者の基本情報
3. 使用中の補聴器について
4. 補聴器使用時の工夫やアイデアについて
5. 補聴器購入時のことについて
6. 補聴器販売店の対応について

4 アンケートの分析・考察 ..... P.36～37

1. 認定補聴器技能者対象アンケートのまとめ
2. 顧客(65歳以上の高齢者)対象アンケートのまとめ

## 【現地調査報告】

1 補聴器フィッティングの流れ ..... P.38～40

1. 事前のコンサルティング
2. 聞こえの測定
3. 補聴器の選択
4. 補聴器の調整
5. 補聴効果の確認
6. 補聴器装用のケア

2 認定補聴器技能者インタビュー ..... P.41

3 店舗での高齢のお客様への配慮の例 ..... P.41

## 【まとめ】

1 補聴器販売店の方へ ..... P.42～45

1. 認知症かなと思ったら
2. 認知症チェックリスト
3. 相談窓口
4. お店でお客様に対応する方へのお願い

2 補聴器の活用 ..... P.46～51

1. 高齢者と補聴器
2. 高齢者の補聴器フィッティング
3. 継続使用・アフターケアの留意点
4. まとめ

3 知っておきたい制度や知識 ..... P.52

1. 認知症サポーター制度
2. 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン
3. 補聴器業界のガイドライン・自主規制

巻末資料 ..... P.53～56

- ・フィッティング記録用紙の見本
- ・補聴器適合に関する診療情報提供書及び報告書

# 作成者

令和2年度 高齢者に対する補聴器のフィッティングに関する調査研究事業 検討委員会

## 委員

- |          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| ◎ 小川 郁   | 慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科 教授               |
| ○☆ 内田 育恵 | 愛知医科大学耳鼻咽喉科 准教授                 |
| ☆ 梅垣 宏行  | 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学老年科学教室 准教授 |
| 白濱 雅之    | 一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)    |
| 矢沢 由多加   | 公益財団法人テクノエイド協会 試験研修部部長          |
| 成沢 良幸    | 一般社団法人日本補聴器工業会 理事長              |
| 田中 隆志    | 一般社団法人日本補聴器工業会 副理事長             |
| ☆ 阿部 秀実  | 特定非営利活動法人日本補聴器技能者協会 理事長         |
| 村上 眞吾    | 特定非営利活動法人日本補聴器技能者協会 副理事長        |
| ○ 佐藤 誠   | 一般社団法人日本補聴器販売店協会 理事長            |
| 青戸 義彦    | 一般社団法人日本補聴器販売店協会 専務理事           |

◎:委員長 ○:副委員長 ☆:原稿執筆者

## 関連団体HPアドレス

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会(補聴器相談医に関すること)  
<http://www.jibika.or.jp>

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)  
<http://www.jdwg.org>

公益財団法人テクノエイド協会(認定補聴器技能者・認定補聴器専門店の認定に関すること)  
<http://www.techno-aids.or.jp>

一般社団法人日本補聴器工業会(補聴器製造・メーカーに関すること)  
<http://www.hochouki.com>

特定非営利活動法人日本補聴器技能者協会(補聴器技能者の団体)  
<http://www.npo-jhita.org>

一般社団法人日本補聴器販売店協会(補聴器販売に関すること)  
<https://www.jhida.org>

# 「はじめに」

我が国は世界にも類を見ない超高齢社会を迎えています。内閣府高齢社会白書によれば、2020年の高齢化率(65歳以上の高齢者の人口に対する割合)は28.9%であり、団塊の世代の高齢者が全て75歳以上の後期高齢者となる2025年には高齢化率は30%に達し(約3,500万人)、2065年には40%にも近づくと予測されています。これに伴って医療費も飛躍的に増加しており、厚生労働省としても早急の対応を求められています。高齢者が増えることによって加齢性難聴が増加することは当然のことであり、国立長寿医療センターが行っているコホート研究(NILS-LSA第6次調査(2008-2010))でも65歳以上の高齢者の難聴者は1,500万人以上になると推計されています。また、世界的にも難聴者の増加が危惧されており、WHOは2018年に4.66億人であった難聴者が2030年に6.3億人、2050年には9.0億人に急増するとして難聴対策が喫緊の世界的課題になっていると指摘しています。

「聞こえ」の重要性はコミュニケーションとの関わりにあります。「聞こえ」の裏側には「言語(言葉)」があり、我々は言葉を聞いて、頭の中でその言葉を理解し、自分の言葉として相手に返していますが、このようなプロセスでコミュニケーションを行っています。頭の中で聞いた言葉を理解する際には必ず楽しい、嬉しい、悲しい、不快だといった感情(情動)が伴うなど、常に複雑な高次脳機能が働き、これが認知機能にも影響することは明らかです。難聴は「微笑みの障害」と呼ばれるように、会話で聞き取れないと、何度も聞き返すことを避けて笑ってごまかしてしまうことも少なくありません。このため相手から誤解されたり、疎外されたりして社会的に孤立するようになり、コミュニケーションが減少、認知機能が低下、うつが進むことになると考えられます。障害調整生命年(disability-adjusted life year: DALY)による分析によれば、我が国の疾患群では認知症をはじめとする精神神経疾患のインパクトが悪性腫瘍や心血管病を抜いて1位となっており、2015年、厚生労働省は「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～」と、通称新オレンジプランを発表しました。2017年、アルツハイマー病協会国際会議(Alzheimer's Association International Conference)(AAIC 2017)はグローバルな認知症症例の3分の1以上(35%)が、個人のリスクに影響を与える生活習慣要因に対処することで予防できる可能性がある」と報告し、35%のうち、

中年期に難聴に対して介入で9%修正可能とし、全ての修正可能なリスク要因の中で難聴が最も高いリスク要因であることを報告したことによって、高齢者の難聴(加齢性難聴)に対する早期介入が極めて重要であることが世界的にも認識されました。これらの現状から特に高齢者の難聴に対する医療的、社会的介入が重要な課題となっていることは明らかです。高齢者の難聴による社会的孤立を防ぐためには三位一体の対応が必要とされています。第一に、難聴の的確な診断、そして介入が必要な加齢性難聴と診断された場合には可及的早期に補聴器適合を行うことです。しかし、それだけではなく、単に補聴器を装用するだけではなく、補聴器装用による聴覚トレーニングを行うことも重要です。また、独居の高齢者が増加する中で、なるべく双方向的な会話をする機会が多くなるような地域的なコミュニティを整備することも行政的な課題となっています。

さて、このような現状の中で、厚生労働省老健局の補助金事業として「令和2年度高齢者に対する補聴器のフィッティングに関する調査研究事業」を、一般社団法人日本補聴器販売店協会を中心に行うことになり、この調査研究事業の成果を、「補聴器販売従事者のための手引き【高齢者に対する補聴器フィッティングの留意点】」として報告、発表することになりました。本手引きは基礎知識としての高齢者の特徴、認知症の基礎知識、高齢者との接し方、調査研究事業としての中心的事業である認定補聴器技能者および高齢補聴器使用者(顧客)を対象としたアンケート調査結果とその分析、認定補聴器専門店での実地調査報告、そして調査研究事業のまとめとしての提言と関連資料から構成されています。JapanTrakで指摘されてきたように、我が国における欧米に比べて格段に低い補聴器満足度、補聴器装用率の改善のために広く活用されることを期待したいと思います。最後に綿密に準備して本調査を行っていただいた皆様、本手引き書のために執筆していただいた皆様に感謝申し上げます、本手引き書の序文とさせていただきます。

2021年3月

令和2年度高齢者に対する  
補聴器フィッティングに関する調査研究事業  
検討委員会委員長  
慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科 教授

小川 郁